▼谷折　▼山折　▼谷折　▼山折

京都丹波高原国定公園の概要

京都府の中央部、京都市、綾部市、南丹市、京丹波町にまたがる 68,851ha に及ぶ広大な区域が平成 28 年 3 月 25 日に国定公園として指定されました。

「芦生の森」と呼ばれる原生的な自然や希少な動植物を有しているだけでなく、「かやぶき屋根」といった特徴的な民家がある集落が共存しています。自然と寄り添う暮らしと伝統文化を継承してきた歴史を感じることができます。

また、京都の市街地に近接するため、日本海と都を結ぶ多くの街道が通る地域でもあり、まさしく自然と文化が融合したユニークな国定公園となっています。

京都丹波高原国定公園ビジターセンター
Kyoto Tamba Kougen Quasi-National Park Visiter Center

T:0771-75-9020 F:0771-75-9040 Email:info@kyototamba-vc.com
京都府南丹市美山町安掛下 23　〒601-0722

協力　鶴ケ岡振興会・
© KYOTO NO MORI NO ANNAIJO All Rights Reserved.

南丹市　美山町のおはなし

美山町は京都府のほぼ中央に位置し、南丹市の北東、京都市内から車で約 1 時間の場所に位置します。そこには豊かな自然と暮らしが織りなす日本の農山村の原風景が残っています。自然と人がつくりだしたこの景色を「日本の原風景」「昔話のあの景色」とよばれています。

美山町は、かやぶきの里に代表される日本の農山村の原風景と豊かな自然が息づく町として知られ、美山町東部に位置する三国岳（959m）山麓の由良川源流域の芦生の森「京都大学芦生研究林」の広大な自然林に囲まれています。美山町の面積の 96%が森林に覆われています。由良川とその支流に沿うように人々は集落をつくり、暮らしています。

気候区分では、美山町は日本海型と太平洋型の移行帯に位置し、多雨多湿で年間平均気温 12,9℃、年間平均雨量は 1,509mm と比較的雨が多く、冬季（12 月～2 月末）には積雪量も多い地域です。

美山町　鶴ケ岡地区のおはなし

福井県大飯郡高浜町の高浜漁港に端を達し、標高 800 メートルの丹波高地の京都府南丹市美山町を経由し、京都府京都市北区の御土居そして京都御所まで続く総距離約 87Km、若狭と都を最短で結んだかつての交易道「西の鯖街道」。若狭を出発した荷物が最初に下ろされ、中継されたのが美山町でした。

若狭国との境には、標高約 640m の堀越峠があり江戸時代には大きな櫓と屋敷があり番人が居たと伝わっている交通の要衝でした。その峠を超え最初の集落が現在の鶴ケ岡の盛郷集落になります。

盛郷集落の脇を流れる棚野川を進むと諏訪神社や殿城跡（城主川勝丹波守光綱）がある殿集落を抜けて、今宮城跡のある今宮集落に至ります。その先には静原集落となりますが、若狭の魚の中継地として門前市が栄えた菅原神社があります。神社の少し手前には、魚市場を象徴する「夷岩」という地名が今でも残っています。

探訪指南

1、危険な生き物や地形に注意

自然豊かな地域では、人にとって危険な生き物（ヤマビル、マムシ、スズメバチやブユ、ツタウルシ等）もたくさんくらしています。市販の医薬品や撃退スプレーなど対策を十分に行って下さい。落石やがけ崩れなど危険な地形もありますので近づかないようにしてください。

2、天候の変化や日没時間に注意

山間部では、標高の高さ、地形の複雑さなどから目まぐるしく天候が変わります。荒天や気温の変化に備えてください。さらに山の影の影響もあり日没時間が早くなる場合もあります。

3、とっていいのは写真

森の生き物たちの隠れ家やすみかである、枝や草花、石や土などをとらないでください。小さな自然の変化が、生き物たちのバランスをこわすこともあります。

4、ごみとトイレ

ごみは必ず持ち帰りください。景観を損ねるだけでなく、生き物たちの誤食や予期せぬエサ場になります。トイレ以外での用足しも危険が伴うばかりでなく、環境を荒らす結果になります。

5、コミュニケーションは楽しい

地域で暮らす人に話を聞いてみよう、特別な情報が手に入ることも。フィールド探訪は、新しい出会いや気づきがあって楽しいこと。準備を整えて、いざ出発！

Kyoto Tamba Kougen Quasi-National Park

Self Guide Map

MO4

セルフガイド マップ
山頂につづくやまじろ
美山地域　鶴ケ岡

後背の津向山に続く、尾根に構築された川勝氏の中世山城。厳重な虎口と四重の堀切をめぐるトレッキング。

難易度　★★★★☆(山歩き)
所要時間　90分
距離　約1.5km（往復）
高低差　約210m

ver202112

今宮城跡
城主　川勝豊前守
時期　戦国
城域　南北約 240m　東西約 300m
標高　425m
史料　「丹波志」
出典：京都府中世城館調査報告書

※山城用語については別紙解説シートをご覧ください

セルフガイドマップ M4「山頂につづくやまじろ」
美山地区　鶴ケ岡

今宮区公民館　駐車場

今宮区公民館駐車場スタート。入山届に記入して、ストレッチして、いざ出陣！

① ゲート

動物や不法な侵入を防ぐ鉄のゲート。入ったらをしっかりと閉めてから進んでください。

② 登坂路入口

ここからいよいよ登り坂。道のすぐ脇には大きな穴がある。いったい何に使われた穴だと思いますか。

③ 耳をすまして、瞳をとじて

そろそろ息が上がってくるころ。ここで少し立ち止まって耳をすましてみよう。川のせせらぎや道路を走る車の音が聞こえてくるよ。

④ 空をみあげてみよう

木々の様子が変わってくるよ。針葉樹の林から、広葉樹の森に！匂いも変わってくるよ。

⑤ あっ！アカマツ

赤くゴツゴツした幹のアカマツ。上を見上げたら松ぼっくり、足元には「森のエビフライ」も。リスが松の種を食べた跡です。

⑥ 「木戸口曲輪」ここが山城の入口

尾根につきました。ここからが「今宮城内」さてこれまでの上り坂の九十九折。さて何回折れ曲がったでしょうか。帰り道に数えてみよう。

⑦ 木々の隙間からのぞいてみよう　1

道の先にお寺「法明寺」が見える。その山の頂上付近に「殿城跡」があります。

⑧ 木々の隙間からのぞいてみよう　2

谷間の手前に低い山が見える。その山の頂上一帯には「島城跡」があります。

⑨ 本曲輪（ほんくるわ）・本丸（ほんまる）・主郭（しゅかく）

今宮城で最も重要な場所であった曲輪。呼び方は様々。一部地面を盛り上げた場所も。

⑩ 四重堀切

城の背後を守る障害地形。尾根伝いに進軍する敵を足止めする。四重堀切は見事！
「今宮城」攻略はここまで、帰りは九十九折を数えるのは忘れずに。